

千葉市感染症発生動向調査情報

2018年 第34週 (8/20-8/26) の発生は？

1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数		34週	33週	32週	31週
上段: 患者数 下段: 定点当たりの患者数	小児科	17	17	16	18
	眼科	5	5	4	5
	インフルエンザ	26	26	20	27
	基幹定点	1	1	1	1

「定点当たりの患者数」とは
報告患者数/報告定点数。

定点	感 染 症 名	千 葉 市					千葉県
		注意報	8/20-8/26	8/13-8/19	8/6-8/12	7/30-8/5	8/13-8/19
			34週	33週	32週	31週	33週
小児科	RSウイルス感染症	○	16	11	7	15	117
	咽頭結膜熱		7	3	8	14	78
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		24	9	13	30	86
	感染性胃腸炎		55	60	33	68	243
	水痘		1	2	0	6	23
	手足口病		13	14	15	28	91
	伝染性紅斑		3	1	2	2	22
	突発性発しん		13	6	10	13	29
	ヘルパンギーナ		22	28	47	79	132
	流行性耳下腺炎		3	0	1	2	5
インフル	インフルエンザ(高病原性鳥インフルエンザを除く)		1	0	0	1	2
眼科	急性出血性結膜炎		0	0	0	0	0
	流行性角結膜炎		7	1	6	3	34
基幹定点	細菌性髄膜炎(髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0	0	0	0	1
	無菌性髄膜炎		0	0	0	0	0
	マイコプラズマ肺炎		0	0	0	0	4
	クラミジア肺炎(オウム病を除く)		0	0	0	0	0
	感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)		0	0	0	0	1

★★: 流行中 ★: やや流行中 ◎: 増加 ○: やや増加 →: 変化なし ↓: やや減少 ↓↓: 減少

2 全数報告対象疾患(35件)

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	男性	30歳代	IGRA検査等	百日咳	女性	10歳未満	病原体遺伝子の検出
結核	男性	80歳代	病原体の分離・同定等	百日咳	女性	10歳代	病原体遺伝子の検出
結核	女性	70歳代	ツベルクリン反応等	百日咳	女性	10歳代	抗体の検出
結核	女性	90歳代	画像検査等	風しん	男性	20歳代	病原体遺伝子の検出
腸管出血性大腸菌感染症	女性	20歳代	病原体の分離・同定	風しん	男性	30歳代	病原体遺伝子の検出
		30歳代	及びベロ毒素の確認	風しん	男性	30歳代	病原体遺伝子の検出等
レジオネラ症	男性	50歳代	病原体抗原の検出	風しん	男性	40歳代	病原体遺伝子の検出
レジオネラ症	男性	60歳代	病原体抗原の検出	風しん	男性	40歳代	病原体遺伝子の検出等
レジオネラ症	男性	70歳代	病原体抗原の検出	風しん	男性	40歳代	病原体遺伝子の検出
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	女性	70歳代	病原体の分離・同定	風しん	男性	40歳代	病原体遺伝子の検出等
				風しん	男性	50歳代	病原体遺伝子の検出
百日咳	男性	10歳未満	病原体遺伝子の検出	風しん	男性	50歳代	病原体遺伝子の検出
百日咳	男性	10歳未満	抗体の検出	風しん	男性	50歳代	病原体遺伝子の検出
百日咳	男性	10歳未満	病原体遺伝子の検出	風しん	男性	50歳代	病原体遺伝子の検出
百日咳	男性	10歳代	病原体遺伝子の検出	風しん	男性	50歳代	病原体遺伝子の検出等
百日咳	男性	70歳代	抗体の検出	風しん	男性	60歳代	病原体遺伝子の検出
百日咳	女性	10歳未満	病原体遺伝子の検出	風しん	女性	20歳代	病原体遺伝子の検出
百日咳	女性	10歳未満	抗体の検出	風しん	女性	50歳代	病原体遺伝子の検出等

・第34週は、結核4件(117)、腸管出血性大腸菌感染症2件(15)、レジオネラ症3件(7)、劇症型溶血性レンサ球菌感染症1件(5)、百日咳10件(122)、風しん15件(34)の報告があった。

※ ()内は2018年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

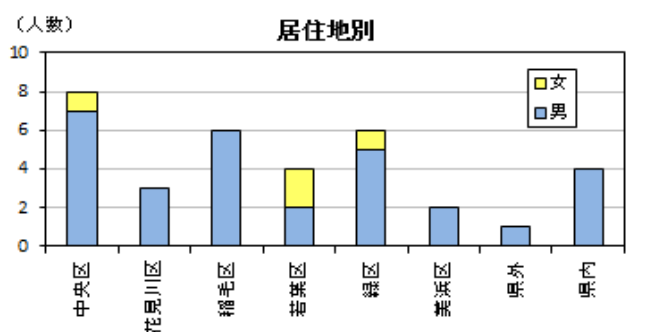
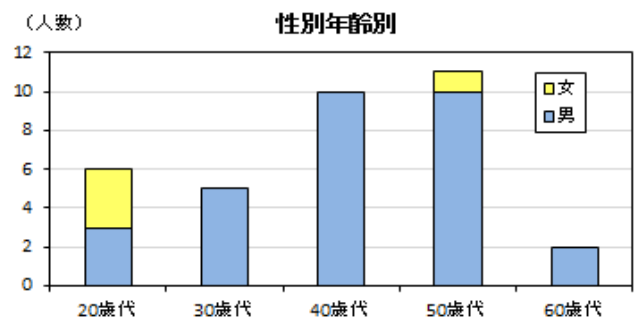
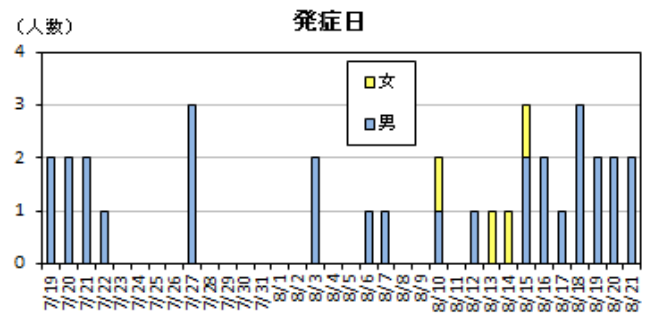
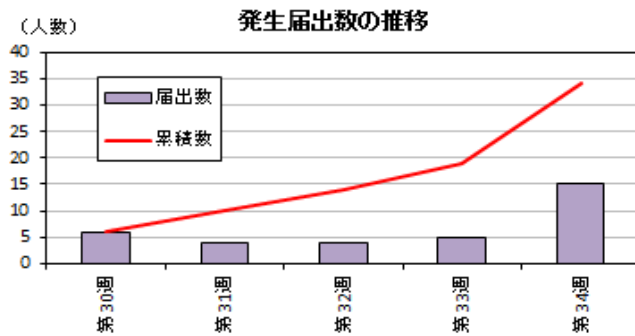
定点当たり報告数 第34週のコメント

＜RSウイルス感染症＞前週より更に増加し0.94となった。過去10年の同時期と比べると多い。

■ トピック ■

＜風しん＞

全国レベルの第33週の累積報告数は184件で、昨年同時期と比べるとおよそ3倍強となっています。都道府県別では千葉県、東京都、埼玉県の順で多く報告されており、千葉県を中心として関東地域で多く発生しています。千葉市では第30週から報告が始め、第34週は15件（前週の3倍）の発生届があり、2018年の累計は34件となりました。性別では男性が88.2%（30名）、女性が11.8%（4名）で、年齢階級別では50歳代（32.4%：11名）、40歳代（29.4%：10名）、20歳代（17.6%：6名）の順で多く、40歳代～50歳代が中心となっています。居住地別では全区から発生報告があり、中央区（23.5%：8名）、稲毛区及び緑区（共に17.6%：6名）の順で多くなっています。



＜RSウイルス感染症＞

全国レベルの第33週は、過去10年の同時期と比べると2017年に次いで多くなっています。都道府県別では宮崎県、徳島県、愛媛県の順で多く報告されています。千葉県は全国レベルと少なめとなっています。千葉市の第34週は前週より更に増加し0.94となり、過去10年の同時期と比べると多くなっています。区別の発生状況は美浜区（2.25/定点）で急増しており（前週の3倍強）最多で、同区の1歳及び2歳で最も多く発生報告がありました。今シーズンである2017年第36週から2018年第34週までの累積報告数（n=349）によると、性別では男性が57.0%（199名）、女性が43.0%（150名）で、年齢階級別では1歳（39.5%：138名）、6～11か月（20.3%：71名）、2歳（18.3%：64名）の順で多くなっています。

